

講義名	経営管理論B		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	柿沼 英樹		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			

<b>主題と概要</b>			
<p>経営管理の大まかな全体像を学ぶ経営管理論A/Ⅰを発展させて、経営管理のもう少し細部の様相を捉えることに取り組む。具体的には、経営管理に関する応用的な論点(例：フォロワーシップ、組織間関係、国際化)や、近年注目が集まりつつあるトピック(例：プラットフォーム企業、サービス・マネジメント、CSVやSDGs)を取り扱い、これらについて概説する。また、企業事例を取り上げながら、学んだことが実際にどう使われているのかについても理解を深める。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>(1) 経営管理における応用的・現代的な課題と、それらに対する取り組みの概要を理解している。  (2) 具体的な事例について、学習した内容を踏まえて分析できる。</p>			

<b>提出課題</b>			
<p>毎回の授業のなかで、その日の内容に関する小テストを実施する。  授業の内容と関連づけた論述を求めるレポート課題を、2～3回程度提示する。</p>			

<b>課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック</b>			
<p>授業回ごと的小テストについては、その日の授業時間内で解答の提示と補足解説を行う。  レポート課題については、提出後の授業回のなかで、全体向けにフィードバックを行う。</p>			

<b>評価の基準</b>			
<p>定期試験60%、授業回ごと的小テスト20%、レポート課題20%(詳細については講義内で指示する)</p>			

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
<p>・経営管理論A/Ⅰは基本的内容、経営管理論B/Ⅱは応用的内容というかたちで、両科目は設計されている。しかし、経営管理論B/Ⅱの履修にあたって、経営管理論A/Ⅰの履修・単位修得を必須条件とはしない。  ・他の受講生の迷惑となる行為(私語、飲食、講義途中の無断での入退出、ゲーム・動画の視聴など)は厳禁とし、違反者は厳重に対応する。場合によっては退出を命じることもある。</p>			

<b>教科書</b>
・使用しない。

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<p>講義資料は、授業回ごとにRyuka Portal上にアップロードするので、各自で持参すること。  参考文献は、各授業回において適宜提示する。</p>

<b>授業計画</b>
<p>第1回 経営管理論B/Ⅱで学ぶこと：講義の全体像や進め方、評価方法など  第2回 新たなリーダーシップ像：エンカル、オーセンディック、シェアード  第3回 フォロワーシップ：フォロワーからみたリーダーシップ、フォロワーシップ行動  第4回 組織と個人の意思決定：意思決定モデル、バイアスとヒューリスティック、グループシンク  第5回 チーム・集団：グループダイナミクス、コミュニケーション  第6回 コンフリクト・マネジメント：組織内コンフリクトの源泉、コンフリクトの解消策  第7回 組織学習：個人的な学びと組織的な学び、知識創造  第8回 組織間関係：M&amp;A、戦略的提携、ネットワーク組織  第9回 ベンチャー：ベンチャー企業の特徴、アントレプレナーシップ、ソーシャル・ビジネス  第10回 プラットフォーム企業：企業の特徴、エコシステム、フリーミアム、ネットワーク効果  第11回 国際化のマネジメント：国際化の動機、多国籍企業の特徴、日本企業の国際展開  第12回 サービス・マネジメント：サービスの特性、顧客志向、価値共創  第13回 企業の社会的責任：CSR、CSV、SDGs  第14回 経営管理のさらなる課題：パラドックスやジレンマのマネジメント、組織の視点と個人の視点  第15回 全体のまとめと補足解説：経営管理論B/Ⅱの全体像の再整理  定期試験</p>

<b>授業形態(アクティブ・ラーニング)</b>	
ア	PBL(課題解決型学習)
イ	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ	ディスカッション、ディベート
エ	グループワーク
オ	プレゼンテーション
カ	実習、フィールドワーク

<b>準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
<p>予習：講義資料を通読し、その授業回ごとのトピック、キーワードを確認しておくこと、30分程度。  復習：講義資料には要約のみを記載しているため、参考文献を必要に応じて参照しながら詳細を補充すること。また、講義で学んだことが実際の企業経営や自身の職業生活にどのように役立つのかを考えること、合わせて90分程度。  これらのほか、レポート課題への取り組みに、長くかかる人で1課題あたり10時間程度を要する。</p>

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>
<p>クリッカー(Respon)を使用して、毎回の授業において当該回の理解度チェックを兼ねた小テストを行う。  講義資料は、すべてオンラインで配信する。  レポート課題は、Microsoft Word またはその互換ソフトでの作成・提出を義務づける。</p>

<b>実務経験の有無及び活用</b>

<b>備考</b>